



講演・撮影・監督
長谷川 健一

1953年 福島県飯館村生まれ
酪農家
飯館村前田地区区長
福島県酪農協同組合理事

福島県第一原発事故後、飯館村を映像と写真で記録し続け、国内外で村の現状を伝える活動を展開している。

著書

『原発に「ふるさと」を奪われて』（宝島社）
『【証言】奪われた故郷—あの日飯館村で何が起きたのか』（オフィスエム）

福島県・飯館村の酪農家が伝える、
「あの日」からの日々の記録。
忘却への抵抗。



ドキュメンタリー映画

飯館村 わたしの記録

映画上映と講演会

未曾有の災害を目の当たりにした2011年3月11日。

「命とはなにか」「幸せとはなにか」と、そう自分に問いかけ、
今後の生き方やこの国のありかたについて模索した人も多いのではないのでしょうか。

震災から3年が経ちましたが、福島第一原発で起きた原発事故をめぐる問題は、いまだ
事故収束のメドもたたず、原因の究明もされないまま、「いのちを脅かす問題」として、
いぜん私たちの前にたちはだかっています。

長谷川健一さんは「まδειな村」福島県飯館村で酪農をされていました。
「まδει」とは（ていねい）のこと。

自然と人が調和した暮らしをていねいに実践してきた飯館村で、
原発事故後なにが起きていたのか。

一人の酪農家がみた被災地の現状と今後の課題、そして今一番伝えたいこと。
同じ時代を生きる者として「事実」を知り、
よりよい未来について考えたいと思います。

twitter
akabanana2014

f facebook
イベントページ



2014年5月24日(土)

時間：開場12:30 開演13:00~16:30

上映 13:00~14:10 / 休憩 14:10~14:30 / 講演 14:30~16:30
(質疑応答含む)

料金：1,000円

定員：100名

会場：末生流中山文甫会・中山文甫会館3階

大阪市北区中崎西1-5-22

地下鉄谷町線 中崎町駅 4号出口を出てすぐ右折 セブンイレブンの前



チケットのお申込み・お問合せ 090-1229-2040 akabanana@amigo.zaq.jp

主催：FIWC関西委員会 長谷川健一講演会実行委員会

福島県飯館村。
原発事故後、全村避難となり6,200人もの住人が
村を追われ避難生活を強いられている。
「当事者の目線で、自分が実際に味わっていることを伝え、
後世に残さないとだめだ」。
飯館村で酪農家として
家族とともに暮らしてきた長谷川健一さんは
ビデオカメラを購入し、独学で撮影を始めた。

福島県・飯館村の酪農家が伝える、
「あの日」からの日々の記録。
忘却への抵抗。

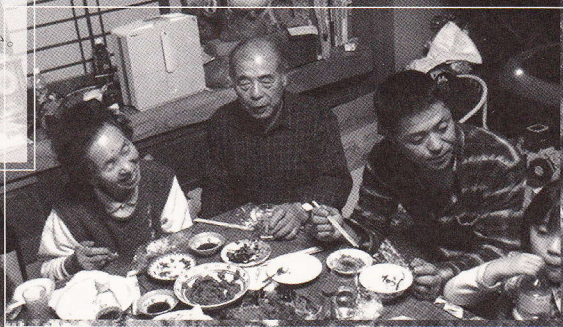
飯館村 わたしの記録

売られていく牛たち、荒れ果てていく田畑、全村避難、
村の自宅で家族が集まった最後の晩餐。
刻々と変わる状況と、放射能に汚染され静かに変わりゆくふるさと——。
長谷川さんが撮影時に吹き込んだコメントが詩的に映像を彩る。



今日は6月29日です。
田んぼは全て雑草畑になってしまいました。
原発によって、村を追い出された、
追い出されて残った土地です。

築20年、やっと建てた、我が家です。
これも、置いていかななくてはならない。
ここで、家族がそろって暮らす日は、
二度とこないだろう。
それだけは、言える。



飯館村 わたしの記録

スタッフ 撮影・監督/長谷川健一

編集・構成/細谷修平

制作/アワープロネットティービー Our Planet - TV

<http://www.iitate-watashi.net>

主催：FIWC関西委員会（フランス国際労働キャンプ関西委員会）

1953年より関西の学生を中心に活動しているボランティア団体。国内のハンセン病療養所や海外のハンセン病快復者の村で生活環境改善のため道路舗装や家屋修繕、交流などの活動を行う。阪神淡路大震災（神戸市）や東日本大震災（宮城県気仙沼市唐桑）などでも、災害発生直後から現地で救援・復旧活動を行う。関東・東海・広島・九州にも兄弟委員会がある。

関連イベントのお知らせ

「あの日から3年、福島は今どうなっているか?!」 長谷川 健一 × 守田 敏也 話と対談

5月25日(日) 午後1時半開場、2時開演

*長谷川 健一氏

福島県飯館村前田地区区長・元酪農家

参加費 500円(資料代)

会場 ふるさとの家

*守田 敏也氏

同志社大社会的共通資本研究センター客員フェローなどを経たフリーライター。
3・11以降、原発事故問題を追いかけている。

主催 西成青い空カンパ

「内部被爆」/岩波ブックレットを物理学者の矢ヶ崎克馬氏と共著

問い合わせ hanamama58@gmail.com